



道は心をつなぐ

道の駅 エコステーション化計画

いよいよ始動

——有事の備えは平時の営みから——

道の駅は2004年の中越地震以来、緊急時対応拠点としての役割がクローズアップされてきましたが、今回の3.11東日本大震災においても道の駅が果たした役割は大きく、改めて評価されています。

未知倶楽部としても、独自の現地取材やアンケート調査を行った結果、緊急時にもっとも道の駅に必要とされるのは、その基本機能（駐車場、トイレ、情報施設）が平常どおりに近い形で維持されていることだ、という認識に至りました。

また、災害時において道の駅が地域の人々と助け合って問題解決ができるのは、普段の営みの中でのつながりが有ってこそです。ただ単に有事を想定して資機材を揃えるだけでは不十分であり、むしろそれを運用する体制づくりに道の駅を核とした地域ネットワークをどう活かすか、そのようなことを予め十分に検討し、関係者、住民のコンセンサス(合意)

を得る地道なプロセスが不可欠でありましょう。

更に、次世代型の「道の駅」は、各地におけるエネルギー、環境、コミュニティ、それぞれのあり方のモデルとなり得るものであると考えます。このようなアイデアを深めて実現していく活動を「道の駅エコステーション化計画」と名付けます。

私達は、道の駅を取り巻く全ての関係者、すなわち、設置者である市町村をはじめとして、指定管理者、都道府県、国、企業、利用者その他の皆様と一緒に、「道の駅エコステーション化計画」について広く議論を深め、地に足の着いた提案に育てていきたいと考えております。

また、「道の駅エコステーション化計画」の趣旨にご賛同頂き、一緒に推進して頂けるパートナーを募集しております。